

国際開発金融機関

国際開発金融機関(MDBS)は途上国の貧困削減や持続的な経済・社会的発展を、金融支援や技術支援、知的貢献を通じて総合的に支援する国際機関の総称である。MDBSで働く先輩から、キャリアの軌跡と現在の業務への思いを語ってもらった。

世界銀行

貧困のない世界を実現したい

学生時代に世銀を批判する本を読み、政策制度構築を通じ途上国の開発に貢献する期待や可能性を感じたのが入行したきっかけです。7月から大洋州地域におけるエネルギー業務全般を担当しています。島嶼国の多くは、さまざまな開発課題を抱えています。少ない人口、天然資源管理の未整備、気候変動や自然災害の影響、廃棄物や環境汚染、ジェンダーなど。エネルギー分野の制度・組織・人づくり、輸入化石燃料の代替、エネルギー・サービスへのアクセス改善などを手伝っています。貧困のない世界を実現するには、あらゆる人と一緒に仕事を進めることが必要。首相のように全体を俯瞰しつつ、官僚のように政策立案能力を持ち、学者のように高い専門性を備え、企業家のようにビジネス機会を追究する発想を持つ。しかも社会的に立場の弱い人々の目線で生活を改善していくようなたゆまぬ努力が求められます。



本橋光徳さん
ヤング・プロフェッショナル・プログラム(YPP)にて2009年に入行、シドニー事務所にて太平洋諸島のエネルギー案件を担当

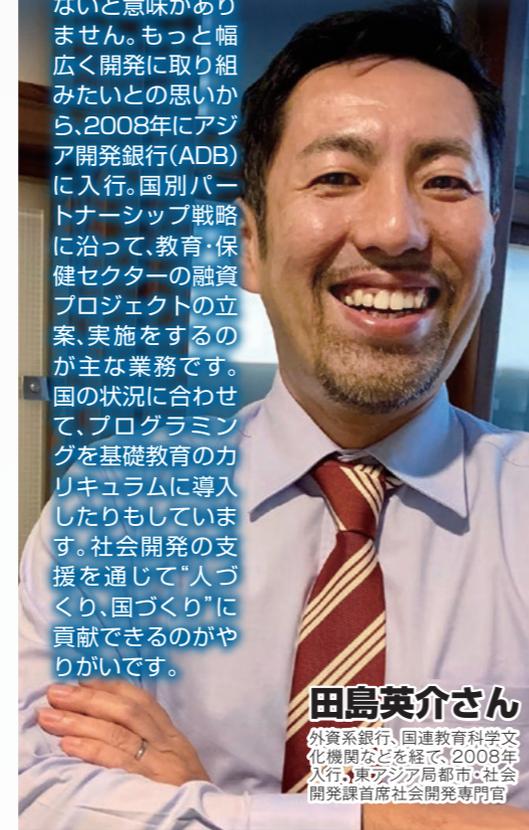


ソロモン諸島でのコミュニティ開発における実績重視型(ODA)プロジェクトにおいての一枚

アジア開発銀行

人的資本への投資が不可欠

外資系の銀行で数字を追う毎日に疑問を感じ、興味があった国際協力の仕事をしたいと退職。バングラデシュでのボランティア、英国で修士を取得した後、ユネスコ本部の教育局にコンサルタントして採用され、さらにユネスコ・ベトナム事務所の教育プログラム担当官に採用されました。そこで教育計画の策定や高等教育改革など政策レベルの支援をしました。いくら質の高い政策提言を行っても、資金がないという理由で実施できないと意味がありません。もっと幅広く開発に取り組みたいとの思いから、2008年にアジア開発銀行(ADB)に入行。国別パートナーシップ戦略に沿って、教育・保健セクターの融資プロジェクトの立案、実施するのが主な業務です。国の状況に合わせて、プログラミングを基礎教育のカリキュラムに導入したりもしています。社会開発の支援を通じて“人づくり、国づくり”に貢献できるのがやりがいです。



田島英介さん
外資系銀行、国連教育科学文化機関などを経て、2008年入行、東アジア局都市・社会開発課首席社会開発専門官

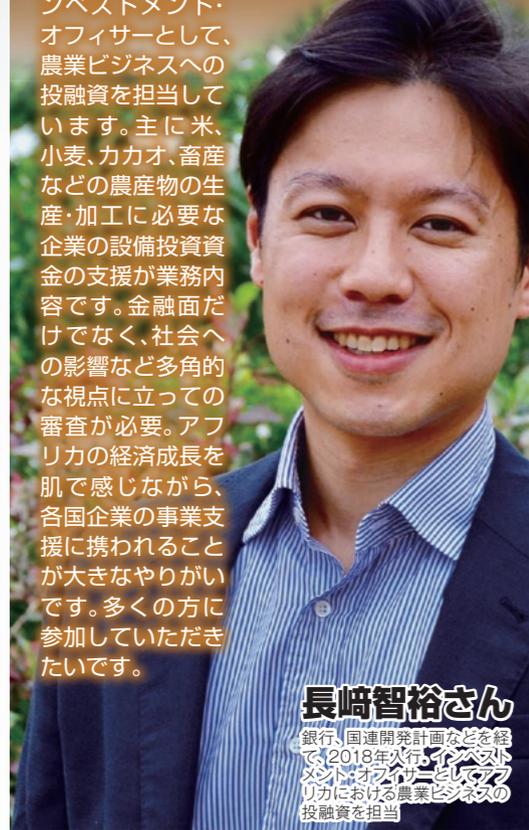


ADBのプロジェクトが支援するバングラデシュの中学校で

アフリカ開発銀行

経済成長を肌で感じられる

学生時代、マラウイの農業NGOでのインターンに行き、国際開発の仕事に興味を持ちました。銀行勤務、大学院留学を経て、民間セクター開発の分野でキャリアを積みました。国連開発計画で企業の社会に与える影響を評価するプロジェクトに携わるうち、金融面からアフリカ企業の成長支援にかかわりたいと考えるようになりました。そして、ヤング・プロフェッショナル・プログラムを通してアフリカ開発銀行(AfDB)に入行。インベストメント・オフィサーとして、農業ビジネスへの投融資を担当しています。主に米、小麦、カカオ、畜産などの農産物の生産・加工に必要な企業の設備投資資金の支援が業務内容です。金融面だけでなく、社会への影響など多角的な視点に立っての審査が必要。アフリカの経済成長を肌で感じながら、各国企業の事業支援に携われることが大きなやりがいです。多くの方に参加していただきたいです。



長崎智裕さん
銀行、国連開発計画などを経て、2018年入行、インベストメント・オフィサーとしてアフリカにおける農業ビジネスへの投融資を担当



コートジボワールの農家を訪問した際に撮ったカシューナッツの実

国際開発金融機関

どんな組織？

国際開発金融機関とは、開発途上国の貧困削減や持続的な経済・社会的発展を支援するために財政支援や融資などを行う機関のこと。「MDBs」とも呼ばれるが、これは世界銀行グループと4つの地域開発銀行（アジア開発銀行、アフリカ開発銀行、欧州復興開発銀行、米州開発銀行グループ）の総称だ。各銀行の所轄地域外の国も加盟することができ、加盟国は資金の借り手である途上国と、ドナーである先進国の双方にわたる。日本は、アジア開発銀行（ADB）の最大の出資・拠出国であり、1966年のADB設立時から、途上国の貧困削減と生活水準の向上を支援してきた。政府開発援助（ODA）のうち、このような国際開発金融機関を通じて支援は「多国間援助」と呼ばれる。これに対し、特定の途上国への直接援助は「二国間援助」という。

最大級の水力発電ダムである黒部ダムや名神・東名高速道路、東海道新幹線を建設し、その後の経済成長の基盤を築いてきた。

国際開発金融機関を通じて途上国支援には、国際協力の豊富な経験が蓄積されていること、中立的な立場からの確かな政策アドバイスができること、途上国の債務状況や制度・政策環境についてのデータや客観的指標に基づく援助を実施できることなどのメリットがある。また、これらの機関は開発分野の研究にも取り組んでおり、アジア開発銀行は東京に「アジア開発銀行研究所」を置いている。

職員になるには？

国際開発金融機関の職員には、高度な英語力と専門性、実務経験などが求められる。金融機関といても、エコノミストや金融専門家だけでなく、社会学やエンジニアリング、環境、教育、農業などのスペシャリストも活躍しており、開発支援に関する専門分野を持つことが重要だ。博士号を取得していることが望ましく、修士号

は必須。

採用方法

採用は主に空席公募（特定のポジションに空きが出たときに募集が出る）のため、こまめにホームページなどをチェックすることが必要だ。空席公募の他にも、「JPO派遣制度」や「YPP」などの採用プログラムもある。*

※ JPOは31ページ、152ページを参照。YPPは31ページを参照。



ADBの支援によるバングラデシュ・ダッカの上水道事業

国際開発金融機関全般の情報は、こちらをチェック！
http://www.mof.go.jp/international_policy/mdbs/
 職員募集については、こちらをチェック！
https://www.mof.go.jp/international_policy/mdbs/recruit.htm

採用関連情報

アジア開発銀行 (ADB)



立入 政之 さん
Tachiiri Masayuki

アジア開発銀行マニラ本部
 Strategy, Policy, and Review Department
 Principal Policy and Strategy Specialist
 (戦略・政策局 主席戦略・政策スペシャリスト)

学生時代

大学卒業後、開発途上国政府への融資などを行っていた海外経済協力基金に就職しました。業務に当たると、専門性を高めたいという思いが強くなり、2年後に社内制度を利用してシカゴ大学経済学部へ留学。経済成長論や計量経済学などを学びました。学位を取得する前に帰国したので、復職後（組織改編により国際協力銀行）は、業務の傍ら週末に論文執筆に取り組む日々を過ごしました。半年後、無事に博士号を取得できたときはうれしかったですね。

- '97年 一橋大学経済学部卒業、海外経済協力基金に就職
- '99年 米国シカゴ大学経済学部留学(PhD)
- '02年 復職（組織統合により国際協力銀行へ）
バングラデシュなどの融資業務に従事
- '07年 アジア開発銀行(ADB)に転職。南アジア局でインド、バングラデシュの上下水道・都市開発案件に従事
- '13年 ADBを一時休職。民間企業でアドバイザーとして官民連携によるインフラプロジェクトに従事
- '16年 ADBに復職、現職

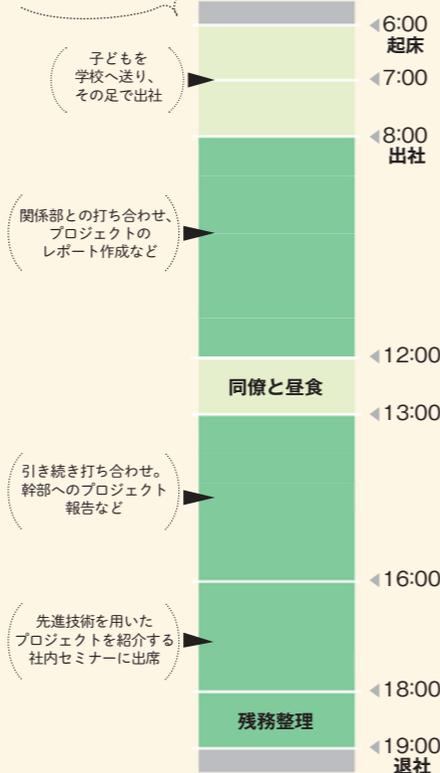
アジア開発銀行入行後

政策支援や制度改革により本格的に取り組みたいという気持ちが強くなり、アジア開発銀行に転職しました。アジア開発銀行南アジア局での主な担当は、インドやバングラデシュの上下水道・都市開発案件でした。バングラデシュは、給水しても漏水などによって料金請求に結び付かない「無収水」の問題を抱えていたため、新しい施工技术を用いた大規模な配管網の更新を支援したほか、料金徴収制度の改善も支援しました。また、現地の政策当局と水道料金や上水道に関する規制制度改革などにも取り組みました。

現在

戦略・政策局は、アジア開発銀行全体の経営戦略や投融資の計画の策定、その管理を担う部署です。私は2030年に向けた長期戦略や、融資・サービスの見直しなども担当しています。戦略・政策局の配属は2回目、前回は長らく途絶えていたミャンマー向けの融資再開にも携わりました。

私のある日



組織の風土は？

国際機関なので、いろいろな国籍や文化的背景の人がいます。経験や考え方の違いから、日本の組織に比べて議論に時間がかかることもありますが、結果として課題の本質・根本に向き合うことができていると思っています。

やりがいとは？

やはり開発途上国の人々の暮らしが少しでも良くなるのが一番のやりがいですが、一方で、開発協力は目に見える形で成果が現れるものばかりではありません。そうした中で、同僚や途上国の関係機関の人々と共通の目標に向かって一歩ずつプロジェクトを進めていく過程にも大きなやりがいがあると感じています。

この仕事を目指す人へ

自分の強みを持つことが大事だと思います。アジアの経済・社会の変化のスピードは速いので、途上国が今必要としている分野よりも、皆さんが第一線に立つ10年後、20年後に重要になる分野を見越して強みを育ててほしいと思います。

3 国家公務員

外務省

日本と国際社会の境界で、国益を追求

国際社会において、日本の安全と繁栄を守るために、外交政策を企画立案、実施する。幹部職員を目指す総合職と、特定の国・地域について、あるいは経済、条約などの分野について特化した専門職がある。



在アルジェリア大使館勤務時、伝統楽器の奏者たちと

高校でのアメリカ留学が、自分の意志で海外に出た初めての経験でした。日本代表として参加した学生国際会議で、日本に対する正確な理解の欠如を感じると同時に、日本も国際社会の動きを十分に把握できていないことに危機意識を持ったのが、外交官を志した理由です。

入省後、最初に配属されたのは、国際貿易課。国内においても利害関係が交錯する中、日本にとつての国益は何かと問いつつ、関係省庁と協議を重ねつつ、各国との交渉に臨みました。その後、在外研修として、フランスの国立行政学院に留学。プログラムの一環として在モロッコ・フランス大使館での研修も体験し、外交大國フランスの手腕を目の当たりにしました。

研修後は、在アルジェリア大使館、地球環境課、広報文化外交戦略課を歴任し、2016年8月の内閣改造

で、外務省初の女性秘書官に抜擢されました。外交の一翼を担う外務大臣政務官が、各国で最大限のパフォーマンスを示すことができるよう、サポートを尽くしました。

政務官の離任後は、中東・アフリカ・欧州約80か国に対するODA政策の立案を担当しています。各国の実情を踏まえた「国づくり」を支援するため、日本ならではの「人づくり」や「質の高さ」を特徴とした手段を提供するのが、私たちの役割です。

外交が扱う課題は多岐に渡ります。安全保障、経済、ODAなど、さまざまな分野に携わることができるのが、外交官という仕事の魅力と

言えるでしょう。相手国がある以上、一筋縄ではいきませんが、大きなやりがいを感じています。



Profile

竹鼻 千尋 さん 外務省 国際協力局 国別開発協力第3課 課長補佐

大学卒業後、外務省入省。国際貿易課勤務後、フランス国立行政学院にて在外研修。その後、在アルジェリア大使館、地球環境課、広報文化外交戦略課を経て、女性初の外務大臣政務官秘書官に。2017年8月から現職。

2 国際開発金融機関

アジア開発銀行 (ADB)

各国の新たな挑戦を金融面からリードする

世界最大の貧困人口を抱えるアジア・太平洋地域の貧困削減と平等な経済成長を後押しするための国際開発金融機関として、1966年に設立された。本部はマニラ（フィリピン）、最大の出資国は日本。



バンコク事務所のオフィスで

ADBでは、各国の分野・画期的な第一号案件などを実現するに当たって、計画をリードするという、民間銀行ではなかなか経験できない仕事に関わることでできるのが魅力です。同僚の出身はアジア各国から先進諸国まで幅広く、中に

大学で社会基盤工学を学んでいた私が国際協力と出会ったのは、大学3年のときです。アジア開発銀行(ADB)で働いていた吉田恒昭先生のゼミで、国際協力やADBの仕事について知りました。それ以降、純粋な土木技術よりも資金調達やインフラ整備の影響などに興味が高まり、新卒時は投資銀行に就職しました。その後、ハーバード大学で行政学・国際開発の修士号を取得。国際機関の若手職員の登竜門となるヤングプロフェッショナルプログラム(YP)でADBに合格し、憧れだったADBで働くことになりました。

は北朝鮮出身の同僚(今は韓国籍を取得)もいます。多くの人が修士号か博士号を取得しているのも、国際開発金融機関ならではの基礎知識、セクター知識、契約書を読みこなす能力などですが、全てのプロセスがスムーズに進むことは少なく、問題に遭遇したときに対応できる粘り強さや前向きな姿勢も欠かせません。

この仕事の直接の顧客は民間企業や各国政府ですが、その背後には全ての国民が含まれています。ADBは営利組織ではない分、融資プロジェクトに環境保全や汚職防止などの高い基準を求めていますので、その条件を踏まえてわれわれと協議を進めてくれる企業や国に、価値ある提案をしていけるよう心がけています。

この仕事の直接の顧客は民間企業や各国政府ですが、その背後には全ての国民が含まれています。ADBは営利組織ではない分、融資プロジェクトに環境保全や汚職防止などの高い基準を求めていますので、その条件を踏まえてわれわれと協議を進めてくれる企業や国に、価値ある提案をしていけるよう心がけています。



Profile

橋都 秀爾 さん バンコク事務所 民間部門業務局 上級投資専門官 (大メコン地域担当)

東京大学工学部で修士号取得後、外資系投資銀行を経て母校工学部の助手に。その後、開発経済学を学び、2007年にADBに入行。南アジア局、民間部門局を経て2017年よりバンコク事務所勤務。